



諸富祥彦先生
<http://morotomi.net/>

Dr.諸富の 元気になる 悩み相談

誰かに相談したいけど、なかなか切り出せない…。

ここではそんな先生方の悩みに、諸富先生がズバッとお答えします。

巻末のハガキで、相談したいお悩みも受け付けています。

取材・文／清水由佳 イラスト／藤井昌子

1 悩み

自分がこれから成長していくうえで、30代中盤の教員はどうなことに気をつけて過ごしていけばいいですか？

自分の専門性を見極め 今後の方向性を明確に

最近のキャリア理論では、35歳で人生後半の流れの基本が決まるといわれます。そのため、30代中盤の先生方が将来を改めて考え、悩むことも多いのだと思います。20代はがむしゃらに突っ走り、ふとそんな時代も過ぎたなと感じておられるのでしょうか。

先生の将来には、いくつかの選択肢があります。一つは、これからも生徒のためにがんがん力を注いでいこうという「情熱クラス担任タイプ」。一方、生徒指導からは少し距離を置いて、自分の専門教科に専念していく「マイペース研究タイプ」。さらに、教育委員会から教頭・校長へ上り詰めていこうと考える「出世主義タイプ」。あとは、これらの中間に属さず、「途方に暮れているタイプ」といった4タイプ。特に高校の場合は、校長への道が狭き門で、昇進に希望を見出せず途方に暮れる先生が多くなりがちなのも事実です。

そこで、先生方にぜひやっていたかったことが、自身のキャリアの「棚卸し」です。これまでにやりがいを感じたこと、義憤を感じたこと、必要とされているなど感じたこと、意外と面白いと思ったこと、他人をつらやましいと感じたことなど、いろいろ書き出してみてください。それによって、自分が何に価値を置いているのか、どこに生きがいを感じられるのかなど、譲れない価値観ともいえるキャリアの土台、「キャリアアンカー」を発見してほしいのです。そうすれば、将来に向けての展望がきっと見えてきます。

例えば、特別支援が必要な生徒の指導をしたり、心理学を勉強してリストカットを繰り返すような生徒のサポートをしたり。また、対生徒ではなく、へこんでいる教師仲間を助け、一緒に学校を盛り上げていく役割を担つてもいい。ければ、ご自身の周囲にいくらでも、これから仕事上のテーマが山積みになっているはずです。